

山元町の将来のまちづくりに関するアンケート
結果報告

(高校生編)

令和7年10月

山元町建設水道課

1. 目的

都市計画マスタープラン(以下都市マスという)の改訂及び立地適正化計画の新規策定における基礎資料として、町民の都市づくりやまちづくりに関する意向等を把握するため、アンケート調査を実施しました。

なお、これらの計画は 20 年後を見据えたものであるため、町の将来を担う中学生・高校生にもアンケート調査を実施しました。

2. 調査対象と方法

アンケートの対象者は、町内に居住する 18 歳以上の町民(以下一般という)、高校生、中学生の 3 通りで実施しました。一般は無作為抽出とし、高校生と中学生は全生徒を対象としました。

調査票の配布及び回収は、郵送と Web アンケートで行い、中学生については、学習用端末を用いて授業の一環として回答することで回収率を高めるよう工夫しました。

3. 実施時期

○一般・高校生：令和 6 年 9 月 3 日～9 月 24 日

○中学生：教育委員会と連携し、授業内で実施

4. 配布・回収状況

配布数、回答数及び回収率は以下のとおりです。

配布数、回答数及び回収率

対象者	配布数	回答数	回収率	備考
一般(18 歳以上)	1,030	395	38.3%	無作為抽出
高校生	266	60	22.6%	全生徒対象
中学生	244	191	78.3%	全生徒対象
計	1,540	646	41.9%	

5. アンケート結果の整理の条件について

単純集計結果については、各設問の無回答は計上していません。なお、地域別のクロス集計については一般のみ整理しています。

6. 調査項目

アンケートの調査項目（一般）

（高校生：●、中学生：▲）

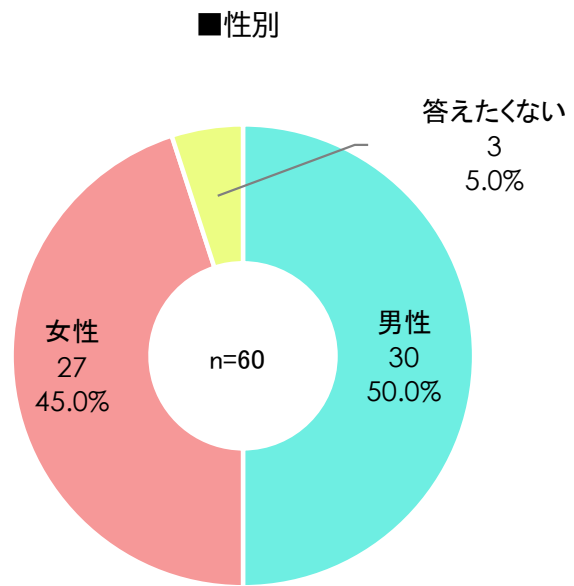
種別	設問	設問の内容	計画への反映	
1. 回答者の属性	問1	性別 ●▲	・分析のための属性把握	
	問2	年齢		
	問3	居住地 ●▲		
	問4	職業		
	問5	通学・通勤先 ●		
	問6	山元町での居住年数		
	問7	家族構成		
2. 町の現在の満足度と将来の重要度	問8	自然環境 ●	・前回（H30）都市マスとの比較	
		健康福祉 ●		
		都市基盤 ●		
		教育文化 ●		
		産業振興 ●		
3. 生活圏と移動パターン	問9	施設の利用頻度 ●▲	・課題の整理	
		施設の主な場所 ●▲		
	問10	施設の主な移動手段 ●▲		
		施設のアクセスの利便性 ●▲		
4. コンパクトなまちづくり	問11	駅周辺やお住まいの地域に充実してほしい施設 ●▲	・課題の整理 ・立地適正化計画の方針	
	問12	徒歩での利用圏内 ●▲		
	問13	自家用車を利用しない場合で住みたい地域 ●▲		
5. 山元町のまちづくり	問14	将来に向けた公共施設や行政区のあり方 ●	・立地適正化計画の方針	
	問15	学校施設の利活用の方向性 ●		・実現化方策など
	問16	産業・物流拠点の立地場所		・将来都市構造など
	問17	将来不安と思うこと ●▲		・課題の整理
	問18	目指すべきまちづくり ●▲		・目標・方針
6. 今後の住み替え意向	問19	今後の定住意向 ●▲	・誘導区域指定の判断材料	
	問20	別の場所に住みたい理由 ●▲		
	問21	転居できない理由		
7. 防災	問22	ハザードマップの認知度 ●▲	・防災指針の検討材料	
	問23	地域の防災対策 ●▲		
8. その他	問24	自由意見 ●▲		

7. 集計結果

(1) 回答者の属性

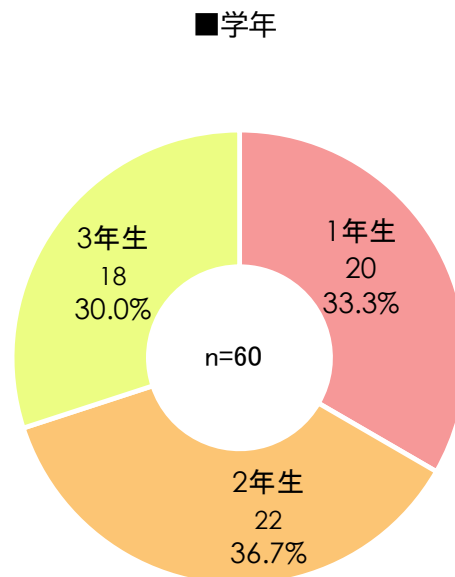
①性別

- ・回答者は「男性」が 50.0%、「女性」が 45.0%と男女比はおおよそ半々となっています。



②学年

- ・「1年生」が 33.3%、「2年生」が 36.7%、「3年生」が 36.7%とほぼ同じ構成となっています。



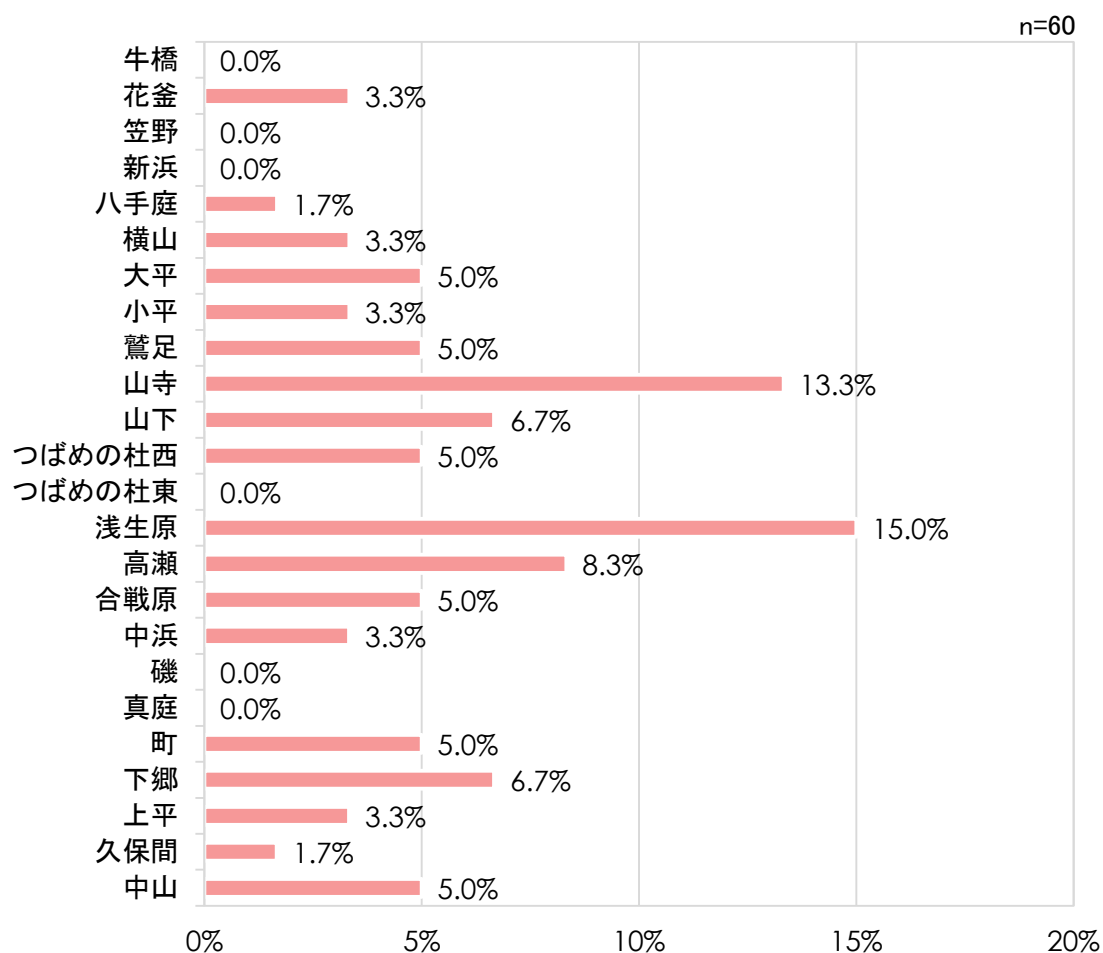
③居住地

- ・居住地は、「浅生原」が15.0%で最も多く、次いで「山寺」の13.3%となっています。
- ・地域別にみると、「山下地域」が75.0%、「坂元地域」が25.0%となり、多くの方が山下地域に居住しています。

■行政区の分類

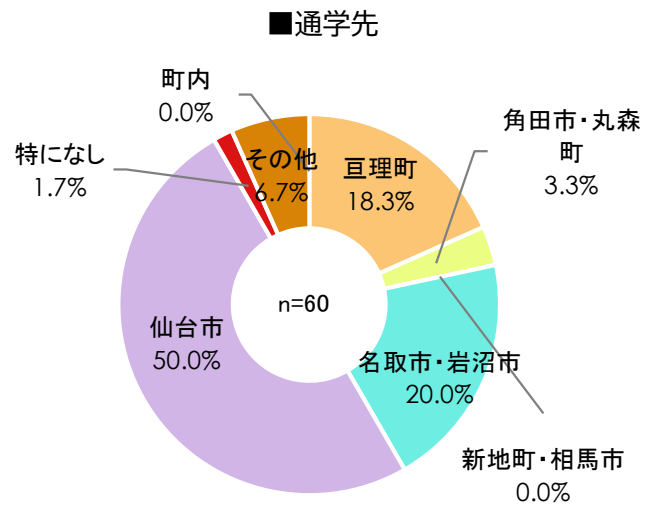
山下地域	牛橋、花釜、笠野、新浜、八手庭、横山、大平、小平、鷺足、山寺、山下、つばめの杜西、つばめの杜東、浅生原、高瀬、合戦原	45人 (75.0%)
坂元地域	中浜、磯、真庭、町、下郷、上平、久保間、中山	15人 (25.0%)

■居住地



③通学先

・「仙台市」が50.0%で最も多く、次いで「名取市・岩沼市」の20.0%、「巨理町」の18.3%となっています。



(2) 地域の生活環境の評価

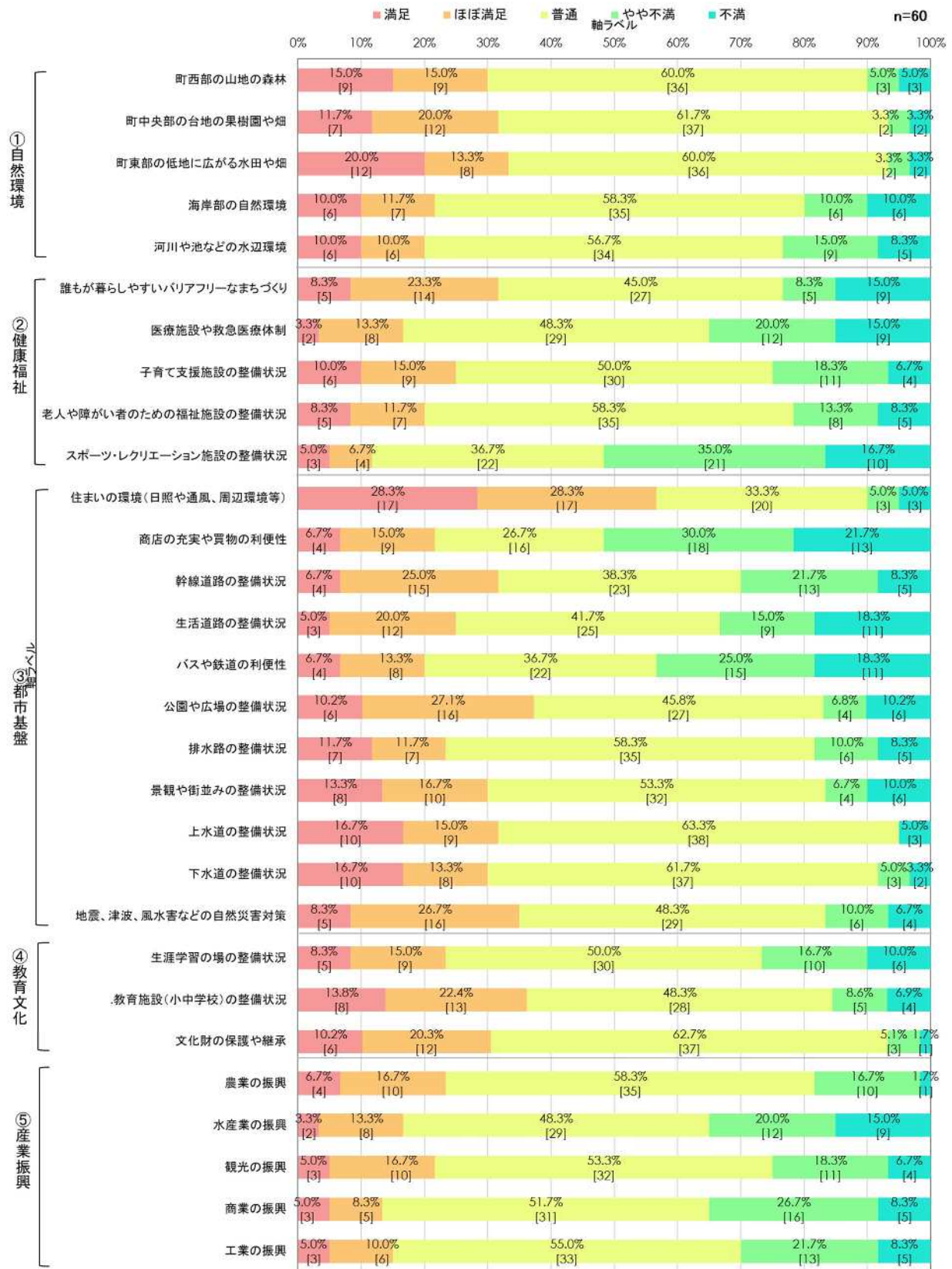
①現在の満足度

- ・全体的に「普通」の割合が高くなっています。
- ・最も満足度が高いのは、「住まいの環境」で、「満足」「ほぼ満足」を合わせて56.7%となっています。
- ・最も満足度が低いのは、「スポーツ・レクリエーション施設の整備状況」及び「商店の充実や買物の利便性」で、「やや不満」「不満」を合わせて51.7%となっています。

※満足度：各項目について、「満足」「ほぼ満足」の割合が高いものを「満足度が高い」、「やや不満」「不満」の割合が高いものを「満足度が低い」として分析

設問分類	概要
①自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に「普通」が最も高く半数以上となっています。 ・比較的満足度が高いのは、「町東部の低地に広がる水田や畑」「町中央部の台地の果樹園や畑」「町西部の山地の森林」となっています。 ・「河川や池などの水辺環境」は、満足度が低い傾向が伺えます。
②健康福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰もが暮らしやすいバリアフリーなまちづくり」「医療施設や救急医療体制」「子育て支援施設の整備状況」「老人や障がい者のための福祉施設の整備状況」は、「普通」が最も高く約半数となっています。 ・「スポーツ・レクリエーション施設の整備状況」は満足度が低い傾向が伺えます。
③都市基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・「住まいの環境」は満足度が高い傾向が伺えます。 ・「商店の充実や買物の利便性」「バスや鉄道の利便性」は満足度が低い傾向が伺えます。 ・上記以外はすべて「普通」が最も高く約半数となっていますが、「満足度が高い」より、「満足度が低い」割合が高いのは、「生活道路の整備状況」となっています。 ・「幹線道路の整備状況」は満足度が高い・普通・低いが30%前後の構成となっています。
④教育文化	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に「普通」が最も高く約半数となっています。
⑤産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に「普通」が最も高く約半数となっています。 ・「水産業の振興」「観光の振興」「商業の振興」「工業の振興」は、「満足度が高い」より、「満足度が低い」割合が高いです。

■地域の生活環境<現在の満足度>



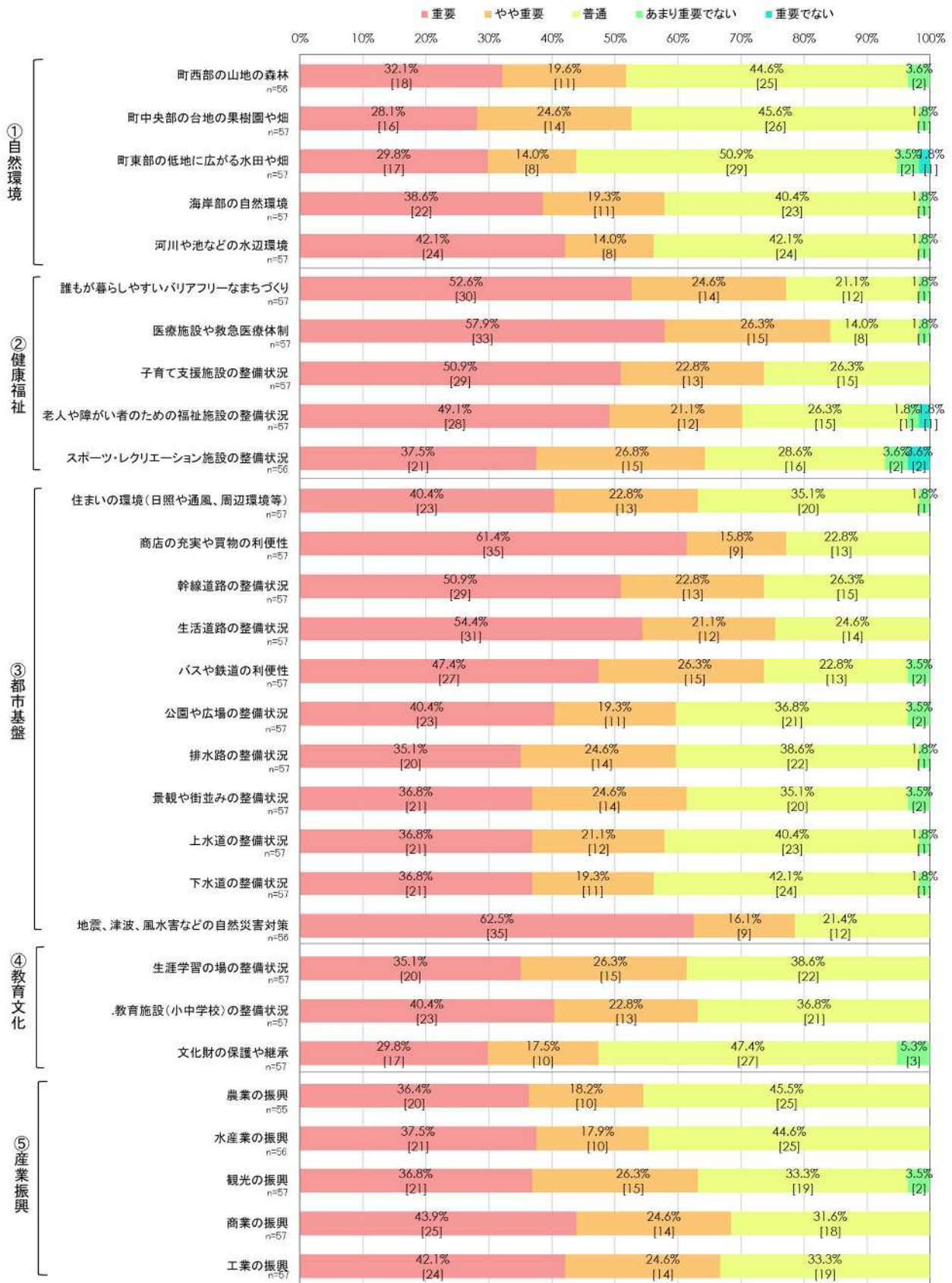
②将来の重要度

- ・全体的に「重要度が高い」が半数以上の割合となっています。
- ・最も重要度が高いのは、「医療施設や救急医療体制」で「重要」「やや重要」を合わせて 84.2% となっています。いずれも「やや重要」よりも「重要」の割合の方が高い項目です。
- ・最も重要度で低いのは、「あまり重要ではない」「重要ではない」を合わせて「文化財の保護や継承」の 5.3%となっています。

※満足度：各項目について、「重要」「やや重要」の割合が高いものを「重要度が高い」、「あまり重要でない」「重要でない」の割合が高いものを「重要度が低い」として分析

設問分類	概要
①自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・「町西部の山地の森林」「町中央部の台地の果樹園や畑」「海岸部の自然環境」「河川や池などの水辺環境」は、「重要度が高い」が半数以上となっています。 ・「町東部の低地に広がる水田や畑」は「普通」が 50.9%で最も高いですが、「重要度が高い」も 4割以上となっています。
②健康福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に「重要度が高い」が最も高く半数以上となっています。 ・特に、「医療施設や救急医療体制」「誰もが暮らしやすいバリアフリーなまちづくり」「老人や障がい者のための福祉施設の整備状況」は「重要度が高い」が 7割以上となっています。
③都市基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に「重要度が高い」が最も高く半数以上となっています。 ・「地震、津波、風水害などの自然災害対策」「商店の充実や買物の利便性」「幹線道路の整備状況」「生活道路の整備状況」「バスや鉄道の利便性」は「重要度が高い」が 7割以上となっています。
④教育文化	<ul style="list-style-type: none"> ・「生涯学習の場の整備状況」「教育施設(小中学校)の整備状況」は「重要度が高い」が最も高く、半数以上となっています。 ・「文化財の保護や継承」は「普通」が最も高くなっています。
⑤産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に「重要度」が最も高く半数以上となっています。 ・産業振興の中で重要度が高いのは、「商業の振興」の 68.4%となっています。

■地域の生活環境<将来の重要度>

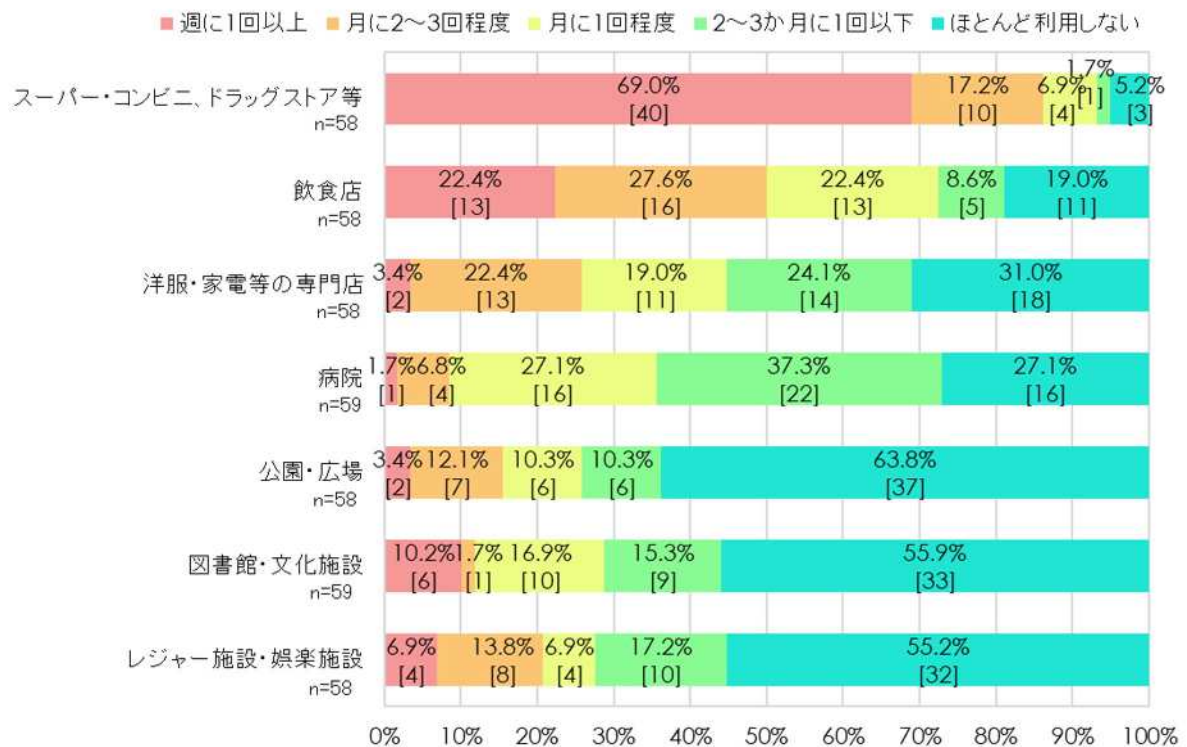


(3) 日常施設で利用する施設や公共交通について

①施設の利用頻度

- ・スーパー・コンビニ、ドラッグストア等、「週1回以上」が69.0%で最も多く、半数以上を占めます。
- ・飲食店は、「月に2~3回程度」が27.6%で最も多く、次いで「週に1回以上」「月に1回程度」が22.4%となっております。
- ・洋服・家電等の専門店は、「週1回以上」の利用が3.4%と低く、上記2項目（「スーパー・コンビニ、ドラッグストア等」「飲食店」）と比較して、「2~3か月に1回以下」や「ほとんど利用しない」といった利用頻度の低いものの割合が多くなっています。
- ・病院も「週1回以上」の利用は1.7%と低く、「2~3か月に1回以下」や「ほとんど利用しない」割合が多くなっています。
- ・公園・広場、図書館・文化施設、レジャー施設・娯楽施設は、「ほとんど利用しない」が半数以上となっております。

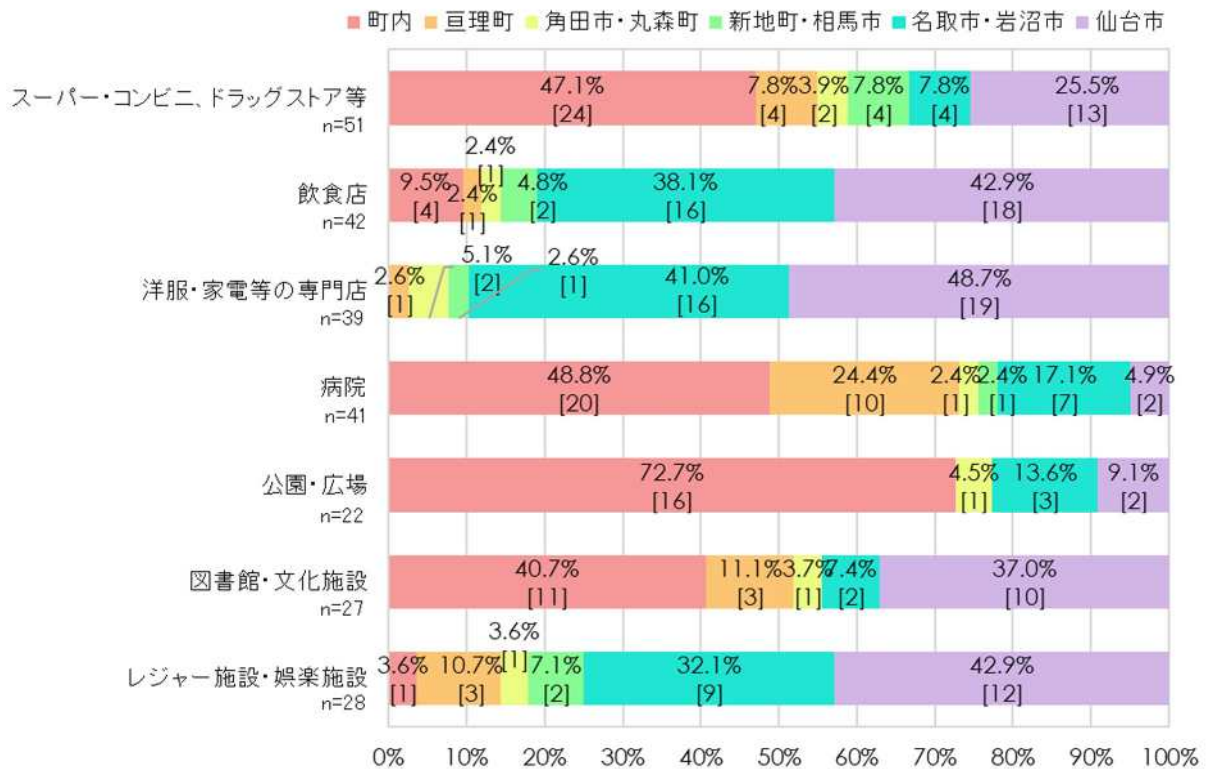
■施設の利用頻度



②施設の主な場所

- ・「町内」利用が半数以上の割合を占めるものは、公園・広場で72.7%となっております。その他、半数近い割合を占めるものは、病院が48.6%、スーパー・コンビニ、ドラッグストア等が47.1%となっており、「町内」が最も多い割合となっております。
- ・図書館・文化施設は「町内」が40.7%で最も多い割合となっておりますが、「仙台市」の割合も37.0%となっております。
- ・反対に、飲食店、洋服・家電等の専門店、レジャー施設・娯楽施設の「町内」の割合はそれぞれ9.5%、2.6%、3.6%となっており、10%未満となっております。利用の割合が最も高いのは「名取市・岩沼市」と「仙台市」で3割～4割以上を占めます。特に、洋服・家電等の専門店では「仙台市」が48.7%で半数近くを占めています。

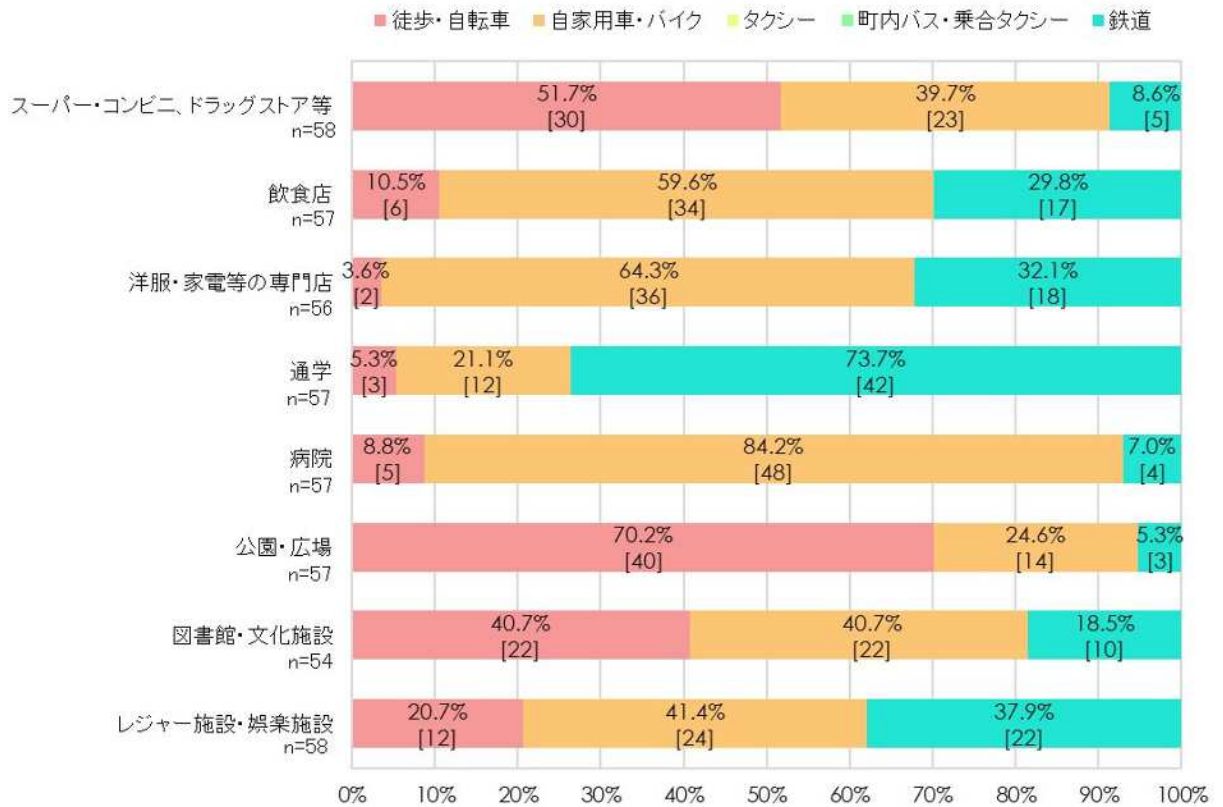
■利用施設の主な場所



③施設の主な移動手段

- ・スーパー・コンビニ、ドラッグストア等、公園・広場では、「徒歩・自転車」が半数以上の割合となっています。特に公園・広場は70.2%となっております。
- ・図書館・文化施設は、「徒歩・自転車」と「自家用車・バイク」が40.7%で同じ割合となっており、残る18.6%は「鉄道」となっております。
- ・通学では、「鉄道」の割合が73.7%と高くなっています。
- ・上記以外の項目は全て「自家用車・バイク」が最も多い割合となっており、特に病院では84.2%と多くの割合を占めています。
- ・「タクシー」や「町内バス・乗合タクシー」の回答はありませんでした。

■利用施設までの主な移動手段

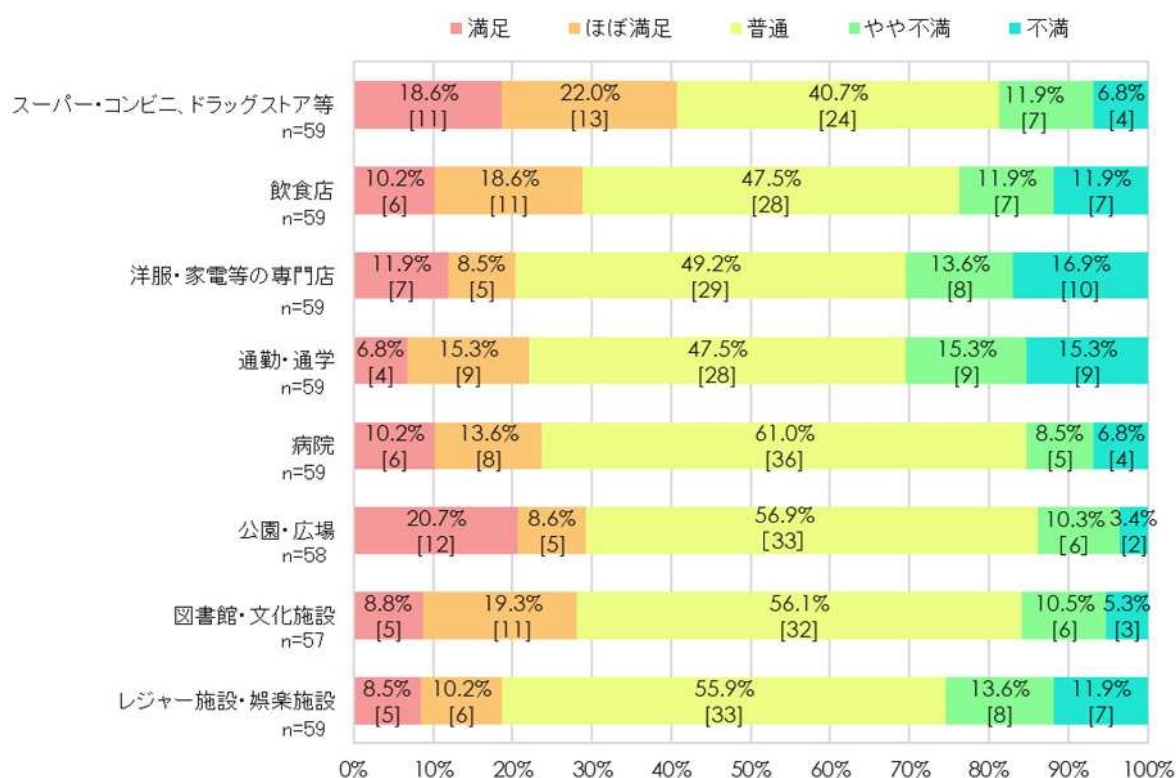


④施設までのアクセスの利便性（満足度）

- ・飲食店、洋服・家電等の専門店、通勤・通学、病院、図書館・文化施設、レジャー施設・娯楽施設といったほとんどの項目で、「普通」が最も高い割合を占め、約半数となっています。
- ・公園・広場は70.2%が「満足」となっており、24.6%の「ほぼ満足」と合わせて「満足度が高い」が94.8%となっています。
- ・「スーパー・コンビニ、ドラッグストア等」は「満足度が高い」と「普通」が同じ割合の40.7%となっています。

※満足度：各項目について、「満足」「ほぼ満足」の割合が高いものを「満足度が高い」、
「やや不満」「不満」の割合が高いものを「満足度が低い」として分析。

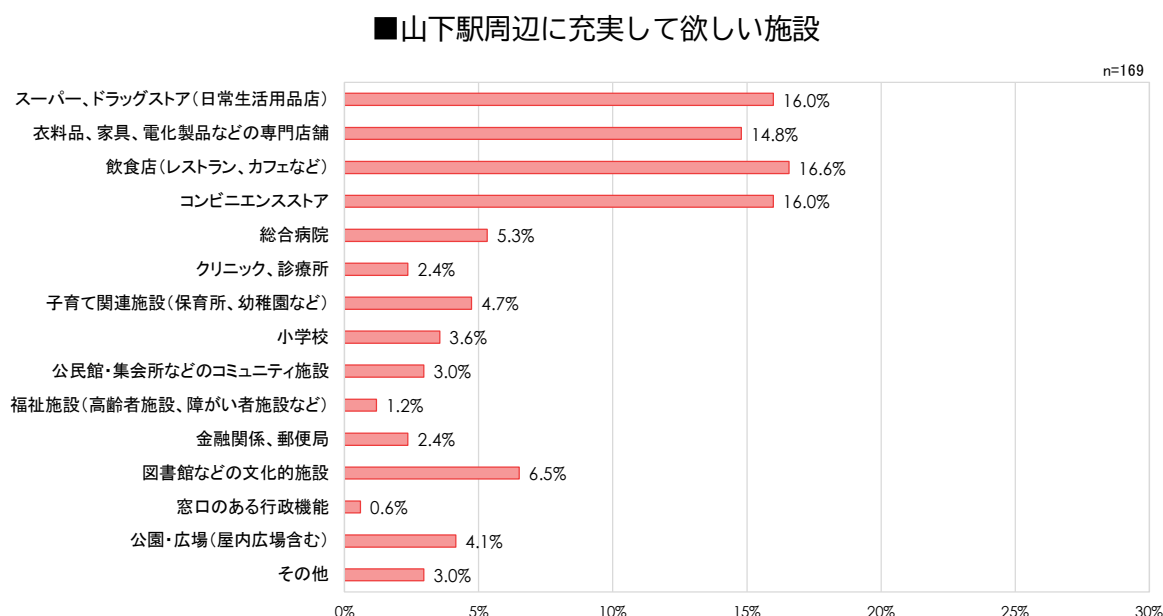
■利用する施設までのアクセスの利便性



(4) コンパクトなまちづくりに向けた考え方について

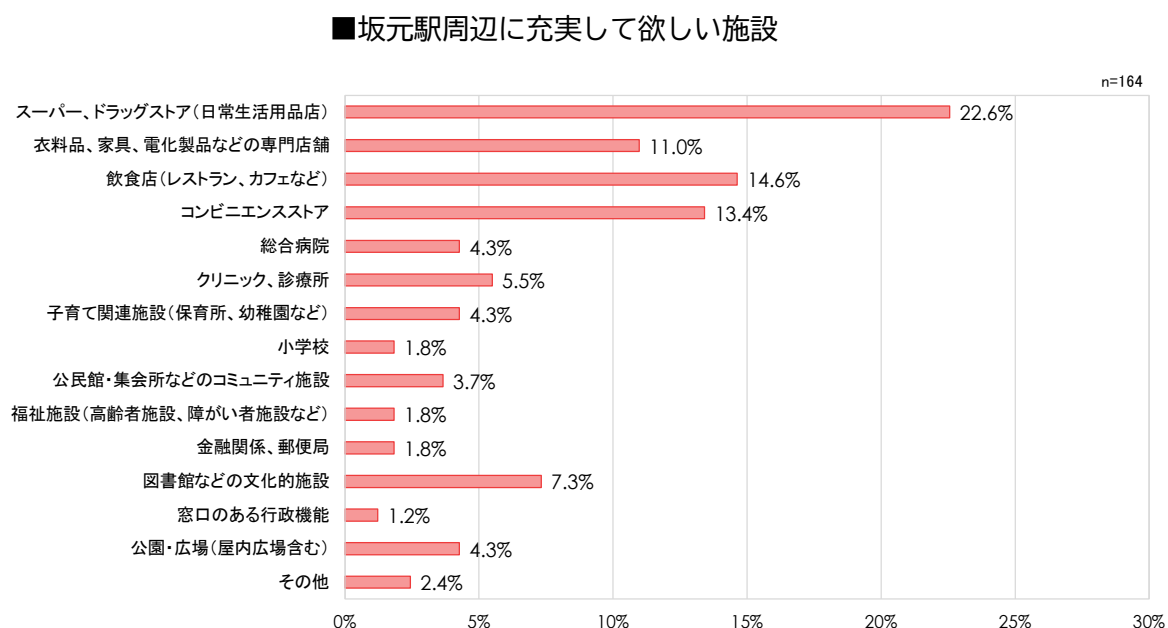
①山下駅周辺に充実して欲しい施設

・「飲食店」が16.6%で最も多く、次いで「コンビニエンスストア」と「スーパー、ドラッグストア」の16.0%、「衣料品、家具、電化製品などの専門店舗」の14.8%となっており、身の回りの買い物施設で割合が多いことが伺えます。



②坂元駅周辺に充実して欲しい施設

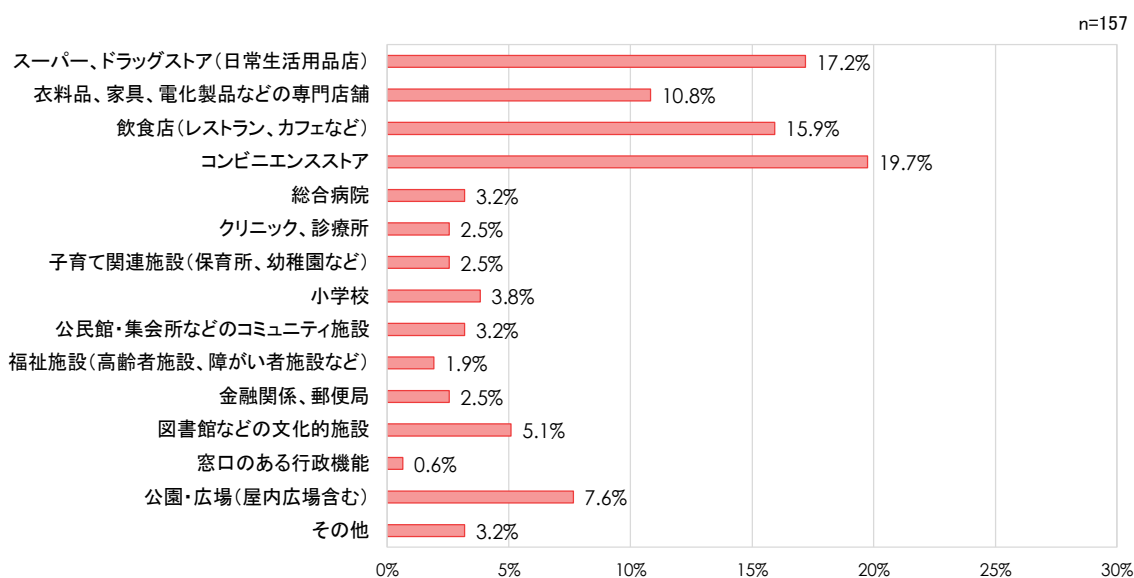
・「スーパー、ドラッグストア」が22.6%と最も多く、次いで「飲食店」の14.6%、「コンビニエンスストア」の13.4%となっています。身の回りの買い物施設で割合が多いことは山下駅周辺と同じ傾向ですが、坂元駅周辺では特に、スーパー、ドラッグストアの充実が望まれています。



③居住地域に充実して欲しい施設

・「コンビニエンスストア」が 19.7%で最も多く、次いで「スーパー、ドラッグストア」の 17.2%、「飲食店」の 15.9%、「衣料品、家具、電化製品などの専門店」が 10.8%と高い割合となっています。山下駅周辺や坂元駅周辺と同様に、身の回りの買い物施設で割合が多いことが伺えます。

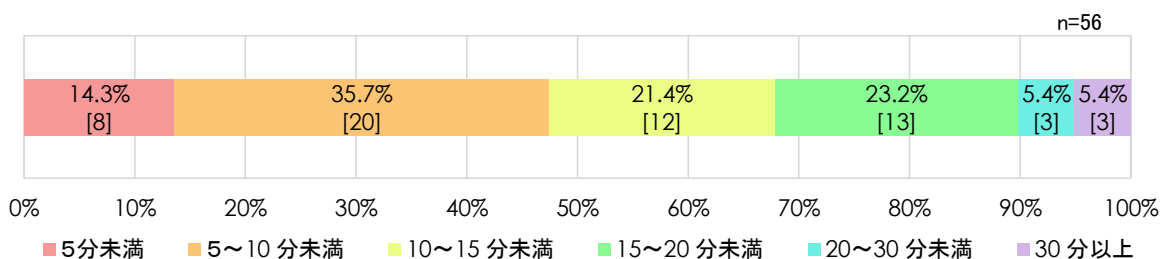
■自分の居住地域に充実して欲しい施設



④商業施設や病院等の日常的に利用する施設までの徒歩可能時間

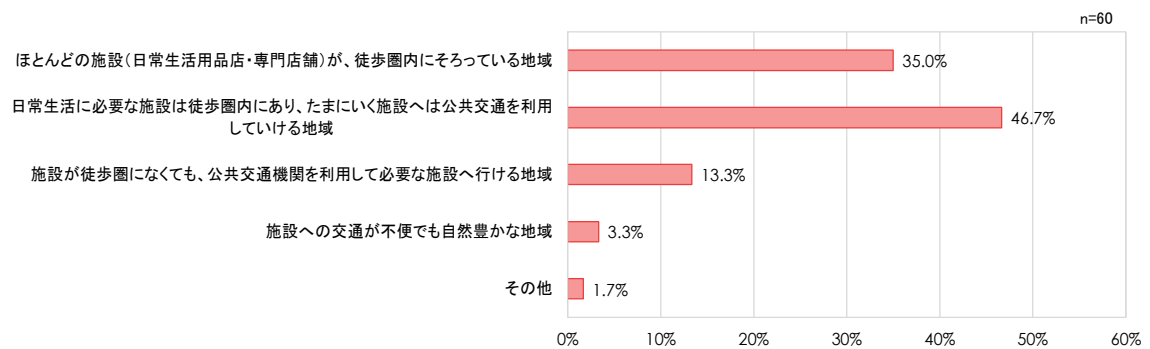
・「5～10分未満」が 35.7%で最も多く、次いで「15～20分未満」の 23.2%、「10～15分未満」の 21.4%となっています。

■日常的に利用する施設までの徒歩可能時間



- ⑤徒歩・自転車や公共交通機関での移動のみで生活する場合の住みたい地域のイメージ
- ・「日常生活に必要な施設は徒歩圏内にあり、たまにいく施設へは公共交通を利用していける地域」は 46.7%で最も多く、次いで「ほとんどの施設（日常生活用品店・専門店舗）が徒歩圏内にそろっている地域」の 35.0%となっています。
 - ・「施設が徒歩圏になくても、公共交通機関を利用して必要な施設に行ける地域」が 13.3%で、上記2項目と比較して割合が 20%以上低くなっていることから、日常生活に必要な施設が徒歩圏にあるかどうかで大きな差が出ていることが伺えます。

■自動車を使用しない場合の住みたい地域のイメージ

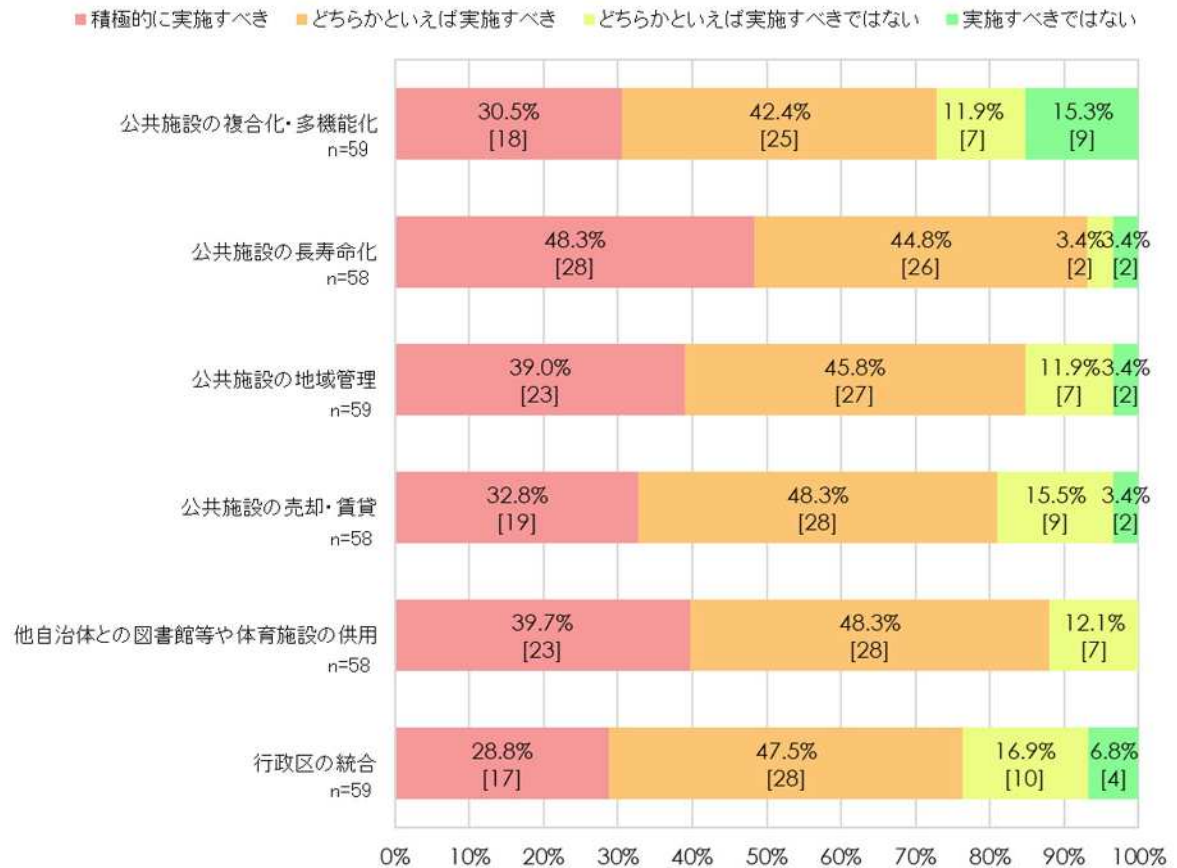


(5) 山元町のまちづくりについて

①将来に向けた公共施設や行政区のあり方

- ・「積極的実施すべき」が最も多いのは、公共施設の長寿命化の48.3%となっています。その他の項目は「どちらかという実施すべき」が最も多く、4割以上となっています。

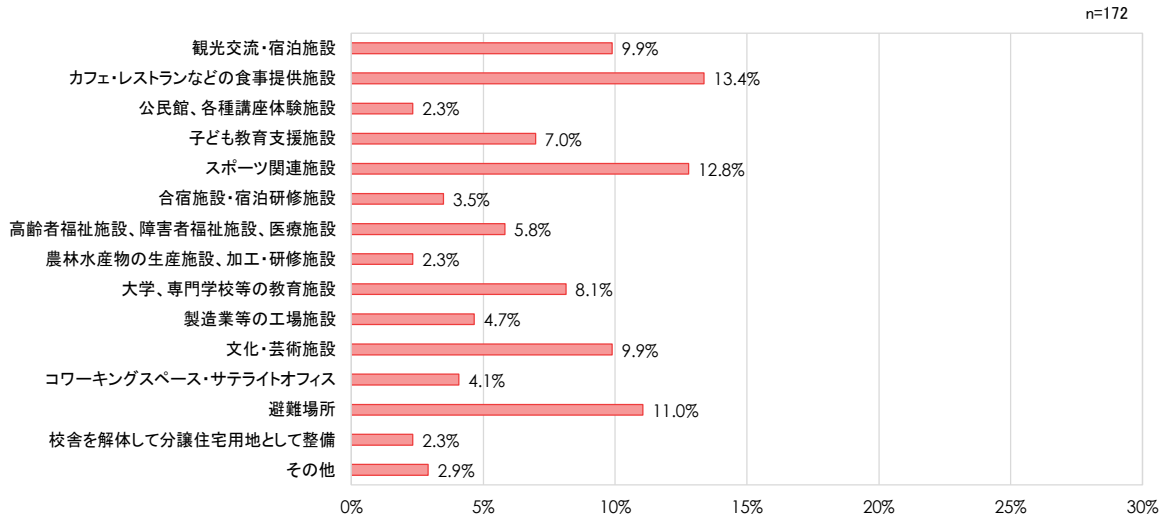
■将来に向けた公共施設や行政区のあり方



②閉校後の学校施設や跡地の利活用の方向性

・「カフェ・レストランなどの食事提供施設」が13.4%と最も多く、次いで「スポーツ関連施設」の12.8%、「避難場所」の11.0%となっています。

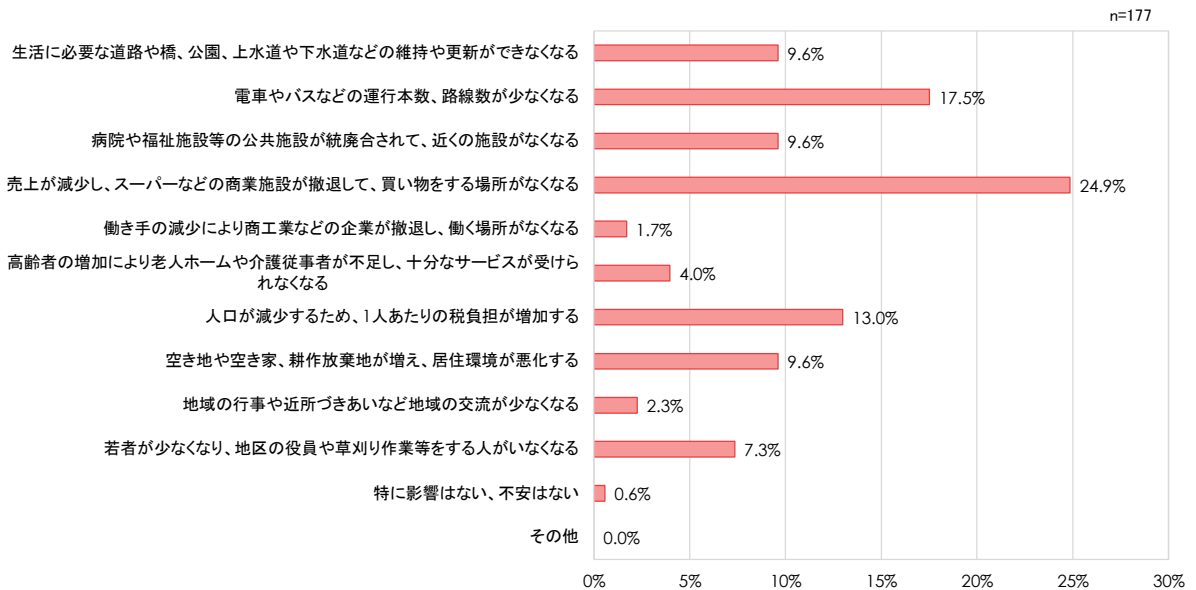
■学校施設の利活用の方向性



③山元町に住み続ける際に生活に関係すること（不安なこと）

・「売上が減少し、スーパー等の商業施設が撤退して買物をする場所が無くなる」が24.9%で最も多く、次いで、「電車やバスなどの運行本数、路線数が少なくなる」の17.5%、「1人あたりの税負担が増加する」13.0%となっています。

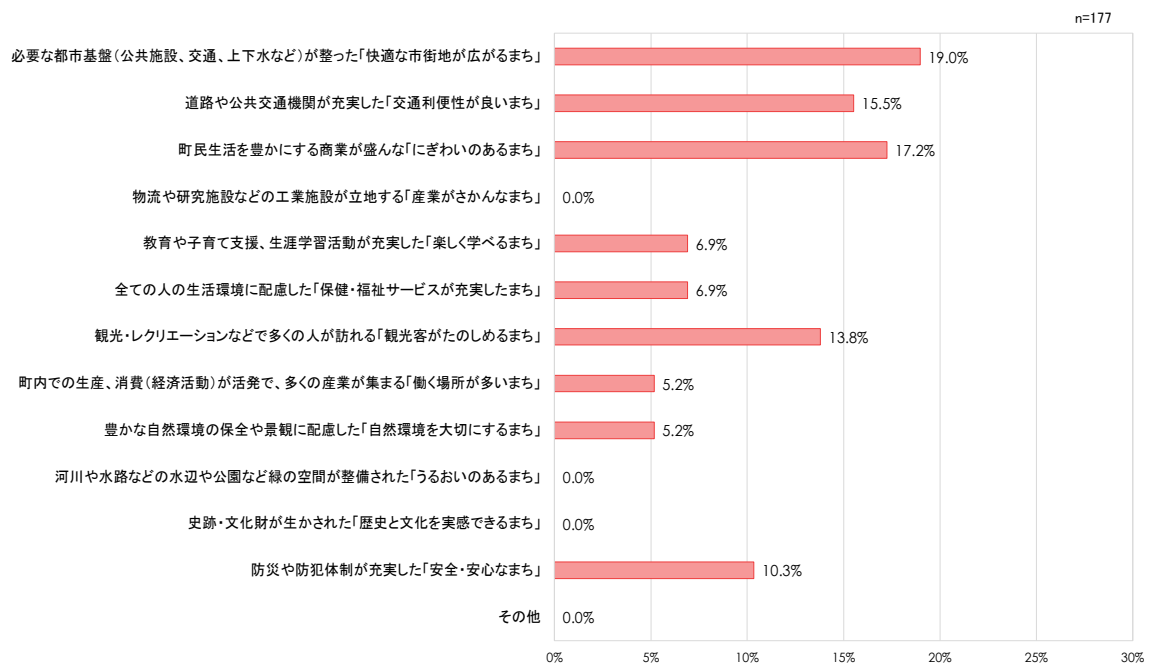
■山元町に住み続ける際に関係すること（不安なこと）



④山元町が目指すべきまちづくり

・必要な都市基盤（公共施設、交通、上下水など）が整った「快適な市街地が広がるまち」が19.0%と最も高く、次いで、町民生活を豊かにする商業が盛んな「にぎわいのあるまち」が17.2%、道路や公共交通機関が充実した「交通利便性が良いまち」が15.5%となっています。

■山元町が目指すべきまちづくり

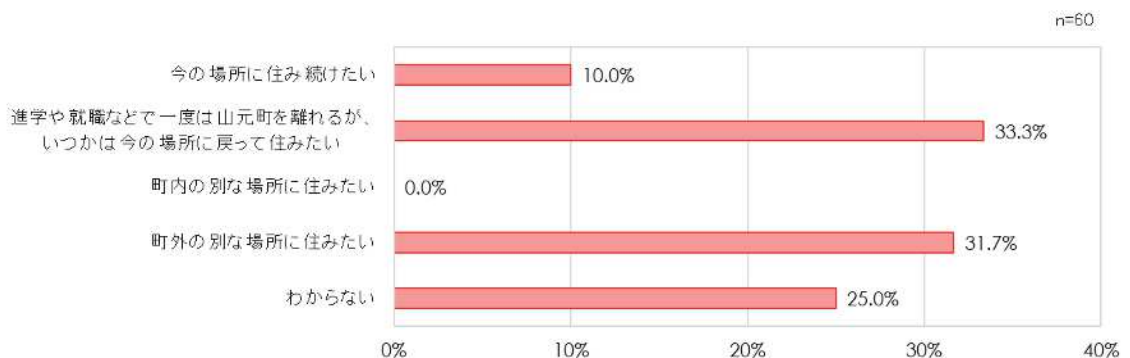


(6) 将来住みたい・働きたい場所

①20年後の住まいについて

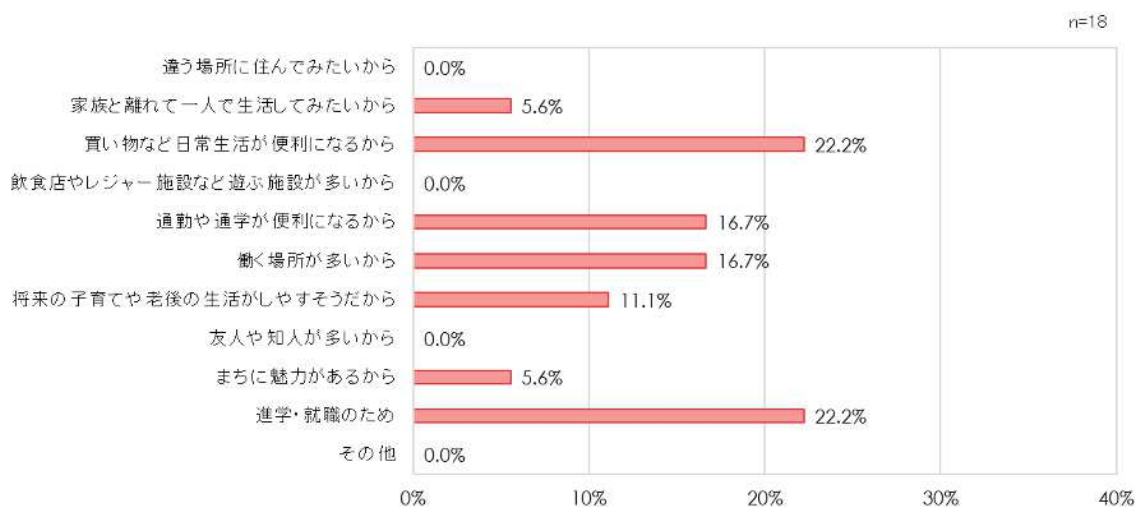
- ・「進学や就職などで一度は山元町を離れるが、いつかは今の場所に戻って住みたい」が33.3%で最も多く、次いで「町外の別の場所に住みたい」が31.7%、「わからない」が25.0%となっています。
- ・山元町に住みたい意向を示している、「今の場所に住み続けたい」は10.0%、「進学や就職などで一度は山元町を離れるが、いつかは今の場所に戻って住みたい」は33.3%で、合計は4割以上となっています。

■20年後に住まいについて



- ・前項で「別の場所に住みたい」と答えた理由については、「買い物など日常生活が便利になるから」、「進学・就職のため」が22.2%と最も多くなっています。
- ・そのほかには、通勤・通学の利便性や働く場所の確保を求める項目が16.7%となっています。

■別の場所に住みたい理由

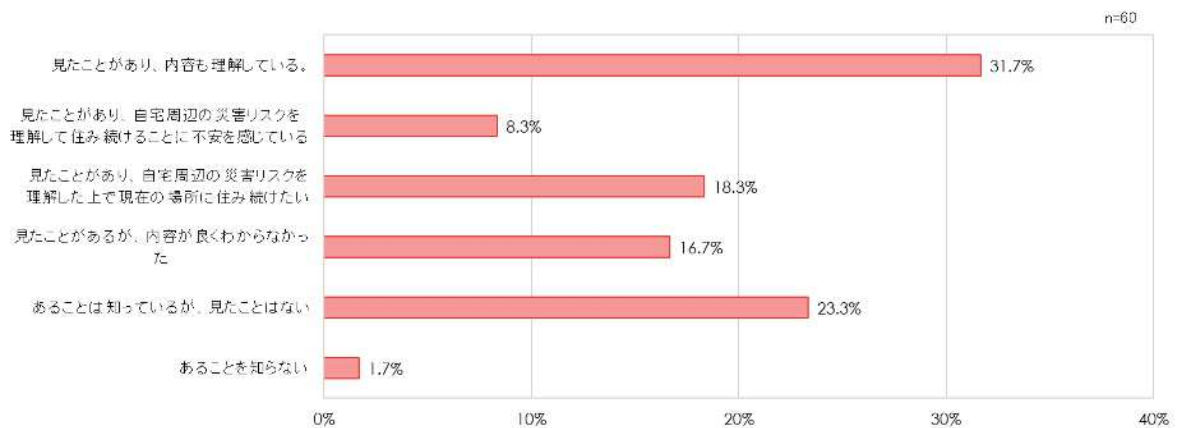


(7) 防災について

①ハザードマップの認知度

- ・「見たことがあり内容を理解している」が31.7%で最も多く、次いで「あることは知っているが見たことはない」が23.3%となっています。
- ・「見たことがある」は、全体で7割以上となっています。

■ハザードマップの認知度（内容の理解）



②地域の防災対策について

- ・「避難場所・避難路など災害に対応できる施設の整備や対策を進めてほしい」が24.5%で最も多く、次いで、「建物の耐震化を進めてほしい」が23.6%、「津波や高潮などの自然災害を防ぐ施設の整備や対策を進めてほしい」が19.1%となっています。

■居住地の防災対策の印象

